

No. 335 2023年10月12日

日本共産党札幌市議団 事務局 TEL 211-3221 / fax 218-5124

環境への負荷低減 ゴミの分別周知徹底を

10月10日 決算特別委員会 小形おり委員

ゴミ減量施策の基本である家庭ゴミ分別の徹底で、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の更なる推進を求める立場で小形市議が質問に立ちました。

同市議は雑がみ・容器プラスチックの分別協力率が低いことを指摘した上で、「分別ルールを理解して実践してもらう市民を増やす必要がある。どのように取り組まれているのか」と質問。市の担当者は「ゴミ分けガイド冊子を区役所などで配布。HPによるゴミの分別の案内や、スマホで確認できるゴミ分別アプリの配信。大学生や専門学校生には、学校と連携し、新入生に対してゴミ出しルールが記載された啓発チラシの配布を行っている」と答弁。これに対して同市議は「雑がみ・容器プラスチックの分別協力率はほぼ横ばい。更なる工夫が必要だと私は思っているが、今後の普及啓発、これについてはどう取り組まれるのか」とさらに質問。市の担当者は「有識者による懇話会を開催し、普及啓発の方法についてご議論を頂いている。懇話会の委員から、年代や地域などターゲットを絞ることなどの意見が出されている。今後につきましては、懇話会の意見を参考に、分別協力率が低い容器包装プラスチックや雑がみにターゲットを絞り、市民に今一度、分別ルールを再確認いただけるような普及啓発に力を入れてまいりたい」と前向きな答弁でした。

最後に同市議は「有識者の懇話会でも、もっとターゲット化した方がいいというようなご意見があった。啓発の中身を工夫していただき、分別を実践する市民をもっと増やしていただきますよう、取り組みの強化を」と求めました。

コロナ対応 市立病院の役割は重要

10月10日 決算特別委員会 さとう綾委員

市立病院の運営についてさとう市議が質問に立ちました。

さとう市議は最初に「医療機関でも多くのクラスターが発生する中、市立病院も例外ではなかった。コロナ禍での病院運営で最も苦労された点を」と質問。市の担当者は「院内での集団感染や濃厚接触者の発生などにより、看護師を初めとした職員が出勤できなくなる事態も発生。これにより職員の配置には苦心した。さらに新型コロナウイルス感染症の患者は他の患者と病棟を分ける必要があったため、ベッドコントロールで苦労した部分が大きかった」とコロナ禍での医療機関における状況を答弁しました。次に同市議は経営面から見た場合、「2021年度から2022年度で、病床利用率が上昇した要因についてどうお考えか。また今年度、病床利用率を上げるためにどういう取り組みを行うのか」と質問。市の担当者は「病床利用率の向上は、当院における一般診療で入院患者の受け入れが徐々に通常に近い状態まで拡大することができた点が主な要因。また、地域の医療機関との連携推進や救命救急センターの受け入れ強化などに向けた取り組みも、継続的に行っており、こういった日々の取り組みの積み重ねが、病床利用率の向上として実を結んできた。今後もこういった取り組みを継続していき、市民のための最後の砦として地域の医療機関を支えていきたい」と答弁しました。

同市議は「高度急性期病院として、高度な医療を提供して、新たな知見を広げていくと、そして地域支援病院として地域病院との連携も強めていく。その中枢を担う仕事も担っておりますので、さらに連携の強化をしていただきたい」と要望しました。